



麺が教えてくれたこと

東京都江東区立
深川第四中学校・1年
矢部 太賀

ぼくは麺類がとても好きで、昔は麺ばかり食べていました。特にうどんが好きで、いつも小麦を味いながら、ゆっくりと食べ、たまには残すこともありました。しかし、今は残さないよう心がけています。ぼくが麺類を残さないようになったのは、小学5年のときの、林間学校に行ってきたからです。

行き先は新潟で、着いたらすぐそば打ちをする予定でした。そば打ちはとても大変で、5、6人で協力してやっても、少しの量を作るのに40分くらいはかかりました。ぼくはそのときに、食べ物を作るときの大変さを知り、なるべく残さないようにしようと思いました。しかし、全部残さずに食べることはとても難しく、残してしまふことの方が多くなってしまいました。でも、食べられる量は以前よりも増えて、残す量も減りました。ぼくは、5年生のときの林間学校でのそば打ちを通して、食べ物の大変さを学びました。3月11日に起きた東日本大震災のこともあって、今では残す量はとても減り、食べる量も増えました。でも、ときどき残すこともあります。全部食べきることは今でもとても辛く感じています。あのときのそば打ちの教訓を活かし、なるべく残さないよう、残す量を最小限に抑えるよう、今でも気をつけています。

これからも、食べ物の大切さを忘れず、食べられることの有難さや、作っていただいた人への感謝の気持ちを持って、なるべく食べ物を残さないようにしたいです。

麺類は、ぼくにたくさんのごちそうを食べてくれた気がします。

中学生 最優秀賞